opusdei.org

## 24. ファリサイ派、サドカイ派、エッセネ派、熱心党とは誰ですか?

西暦 | 世紀のパレスチナにおいて、ユダヤ住民の間で、イスラエルの宗教のよりどころとその宗教生活の仕方に対する理解の多様性から種々のグループが生まれました。

2014/02/04

イエスの時代多くの住民から最も高く評価されていたのはファリサイ派

でした。その名前はヘブライ語でパ ルーシームで「分離者」を意味しま す。彼らの大きな関心は神殿の内外 での清浄習慣に関する律法をいかに 守るかという問題に向けられまし た。祭司の清浄習慣は信仰のために 確立されたもので、ファリサイ派の 人々の日常生活のあらゆる行動の中 での生活の理想を示すために伝えら れ、彼らの生活は習慣化され神聖な ものとなっていました。文書化され た律法(トーラーや五書)のほか に、一連の伝承や律法の規定を実践 するための方法を要約したものがあ ります。これらの重要性が徐々に高 まり、これらもまた神からの口頭の トーラーと受け入れられるようにな りました。彼らの信仰によると、こ れらの口頭のトーラーも文書のトー ラーと共にシナイで神よりモーゼに 伝えられ、従って両方は結びついて 同等の効力を持ちました。

ファリサイ派の一部の人々にとっ て、政治的な大きさはその重要さを 位置づけする時には決定的な役割を 果たし、国家の独立に向けての目的 と結び付いており、従っていかなる 外部的な力も住民の中における神の 支配力に影響を与えてはならないも のです。この様な一派は熱心党の名 前で知られており、これは多分自分 たち自らを名付けたもので、神と律 法の順守に対する熱意を述べていま す。彼らは神より与えられた救済を 考えていましたが、この救済をもた らすためには神は人間の協力をあて にしていることを確信していまし た。そのような協力は最初に純粋に 宗教的な面で、そして律法の厳密な 順守による熱意によって動きまし た。後の西暦50年代以降は、軍事 面でも示す必要があると考えるよう になりました。軍事面では勝利する ためには必要な暴力の使用を拒否す ることはできないが、戦闘中に命を 失う恐怖はありませんでした。それ

は神の名における聖者になるための 殉教でした。

サドカイ派は、上流社会の人々で、 祭司、教育のある、金持ちそして貴 族の家族に属する人々でした。彼ら の内の、一部はローマ帝国での職業 が最初は大祭司であったものいまし たが、大祭司はその当時ローマ帝国 権力に対してユダヤの代表者でし た。彼らはトーラーをファリサイ派 のような多くの詭弁的な問題に陥る ことなく非常にまじめに解釈し、 従ってファリサイ派が口頭のトー ラーと考えるものを軽視しました。 ファリサイ派との違いは、サドカイ 派は死後の世界を信じず、終末論の 死後の世界に対する信仰もありませ んでした。サドカイ派は人気がなく ファリサイ派が享受した大衆の支持 がありませんでしたが、宗教と政治 の力があり、従って非常に影響力が ありました。

近年最も研究されているグループは エッセネ派です。フラウィフス・ヨ セフスを诵して彼らが如何に生活し その信仰はどのようなものであった かについて多くの情報があります。 また、彼らの一部の人々が定住した と思われるクムランで発見された、 特にパピルスや羊皮紙に書かれた文 書による情報もあります。エッセネ 派の特筆すべき特徴は、ハスモン朝 時代から堕落した祭司により行われ ていた、エルサレムの神殿での礼拝 の否定にありました。結果として、 エッセネ派は住民の神聖さを維持し 回復する考えの下に共同の礼拝の実 践をより絞った範囲、すなわち独自 の共同体に分離する方法を選択しま した。砂漠に設けられた隠遁の場所 の多くは他の人たちとの接触による 伝染を避けるのが目的です。経済的 な関係を保ったり献金を受けるのを やめるのは、清貧の理想を追うため ではなく清浄習慣を守るために外部 世界からの伝染を避けるための方法

です。神殿すなわち公式な信仰との決別が実現した時、エッセネ派の共同体は経過的にエルサレムの神殿に替わるあたかも実体のない神殿と理解される一方でエルサレムの神殿においては適切でないと考えられる習慣が引きつづき行われていました。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/24-huarisaipai-sadokaipai-etsusenepai-re-xin-dang-tohashui-desuka/ (2025/12/16)